



秋から初冬への

バラの手入

バラは普通露地では四月の末頃からクリスマスの頃まで（北海道では六月の初めから十一月初旬まで）花を咲き続けます。もつとも四季咲種以外の蔓バラなどは初夏の頃から二、三カ月の間しか花をつけませんが、その成長は初冬の寒さが本格的に襲ってくるまで続けられます。そろそろ休眠期に入りますが、これからのバラの手入について若干説明しましょう。

植かえの適期——十一月に入ると、バラもそろそろ休眠期に入ります。したがってこの時期は春季活動開始前と共に移植の適期といえます。移植場所を前から変えようと思つていたバラなどは、この機会に、ていねいに移植いたします。この際、新しい支柱を立てて樹を結びつけたり、根を吟味して、根頭癌腫病などの病気があれば、焼却するか切り取つておく必要があります。

鉢植えのバラも、この時期に鉢換えを行つてやり、改めて培養土の新しいもので育てるようにいたします。

冬を迎える準備——寒い冬を迎えるために防寒の準備をしたり、石灰や灰などを与えて樹を堅く作らねばなりません。秋遅く

なつて伸びた枝は、まだ熟さぬうちに霜や寒さで痛められ枯れ込んでまいりますから、これらは早く芯をとめる方がよい。また枯れ込んだ枝、病虫害を受けた枝は、そのまま厳寒期がくるまで放置しておかず、今のうちに剪り戻しておくといよい。

防寒法について——現在普通作られてい

るバラの品種は相当耐寒性を持つておりますから、東京附近を標準にしても、寒さだけのために枯死することはまずないと思う。秋定植したばかりの新苗や、病虫害におかされて樹性の衰えたものなどが、だんだん枝先から枯れ込んで、ついには枯死してしまふことがあるので、広い意味で防寒法ということは冬に至るまでの樹の手入れが上手に行われていなければならぬといえます。

敷ワラ——十一月に入つたならば、堆肥

または厩肥などを苗の根元に三〜四握の厚さに敷きつめます。ワラや落葉を敷く場合には、あらかじめその他の肥料、鶏糞、油カス、魚カスなどを鋤き込んだ上に行うとよい。これらのものはすべて、春さき芽が伸び出したら表土に鋤き込んでやる。

土盛り——普通の寒さなら、樹の根元に

高さ十〜二十握の土盛りをしておけば十分です。これは霜で根が浮かされることを防ぐと共に、温度の変化や寒風の被害を予防すること、に接木の接合部を保護すること、に役立つ。この土は春季取除き、もとのように土をならしておくといよい。

霜よけ、雪よけ——寒いカラッ風が吹

たり、相当な寒地では以上の方法に加えて、ワラやムシロで霜雪除けをしてやります。納豆のワラ包みのように枝を包み込んだり、三本の支柱で囲んだり周りをスッポリムシロでくるむ方法等を行えば完全です。

鉢植のバラは鉢ごと土中に埋め、その上に露地植えの場合と同様に防寒してやりま

す。これらのものには、春先き芽が伸び出す気配があれば、できるだけ早く除かぬとかえつて芽が伸びすぎて、寒気に冒され枯れ込むこととなります。冬季積雪のない地帯で霜のため浮き上つた表土は時々踏みかためることが必要です。

バラ苗販賣豫告!!

各種優良バラ苗は明春販売いたします。

一月美麗なカタログ発表進呈

○四季咲種 最新優良品種各色各種

○フロリバンタローズ

花壇用 房咲の美花

○シュラブローズ

半蔓性四季咲種、公園、学校園用

○クライミングローズ

白、赤、桃、黄各色優良蔓バラ

食用菊苗販賣豫告!!

明春有名な食用菊「阿房宮」の苗を販売いたします。

花色鮮黄、花形大、多弁、芳香、食味共に良好。

果樹苗木類の

御註文はして

ありましたか

いよいよ東北・北海道では、果樹苗木の購入期であります。皆様果樹苗木類の御註文はお済みでしょうか。御入用の方は今すぐお申込み下さい。急送いたします。

弊社は既に御案内してありますように、東北・北海道に好適する各種苗木を豊富に準備しております。とくにりんご新種、ブドウ免砧接苗等についても優良苗木を準備してありますので、何卒御用命下さい。

団体、業者の方々等大量の取引については特に勉強値でさしあげますから、今すぐ御照会下さい。

牧草と園藝

第一巻 第九号
定価三十円 送料四円
昭和二十八年十一月一日発行
(毎月一回一日発行)

編集兼 五十嵐 清
発行人 三 田 徳 光
印刷所 興国印刷株式会社
札幌都豊平町美國
発行所 雪印種苗株式會社
振替小帳一八二四八番